

# CLIによるDNA Centerサービスログの設定

## 内容

---

[はじめに](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[背景説明](#)

[Cisco DNA CenterのCLIログ](#)

[手順](#)

[検証](#)

---

## はじめに

このドキュメントでは、CLIを使用してCisco DNA Centerのログを設定する手順について説明します。

## 前提条件

### 要件

- Cisco DNA Centerへのコマンドラインインターフェイス(CLI)アクセスが必要です。
- この手順を実行するには、maglev Secure Socket Shell(SSH)アクセス権限が必要です。

ポート2222のユーザ名としてmaglevを使用します。

### 使用するコンポーネント

このドキュメントの情報は、次のソフトウェアのバージョンに基づいています。

- Cisco DNA Center 2.3.3
- Cisco DNA Center 2.3.5

このドキュメントの情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されました。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、クリアな(デフォルト)設定で作業を開始しています。本稼働中のネットワークでは、各コマンドによって起こる可能性がある影響を十分確認してください。

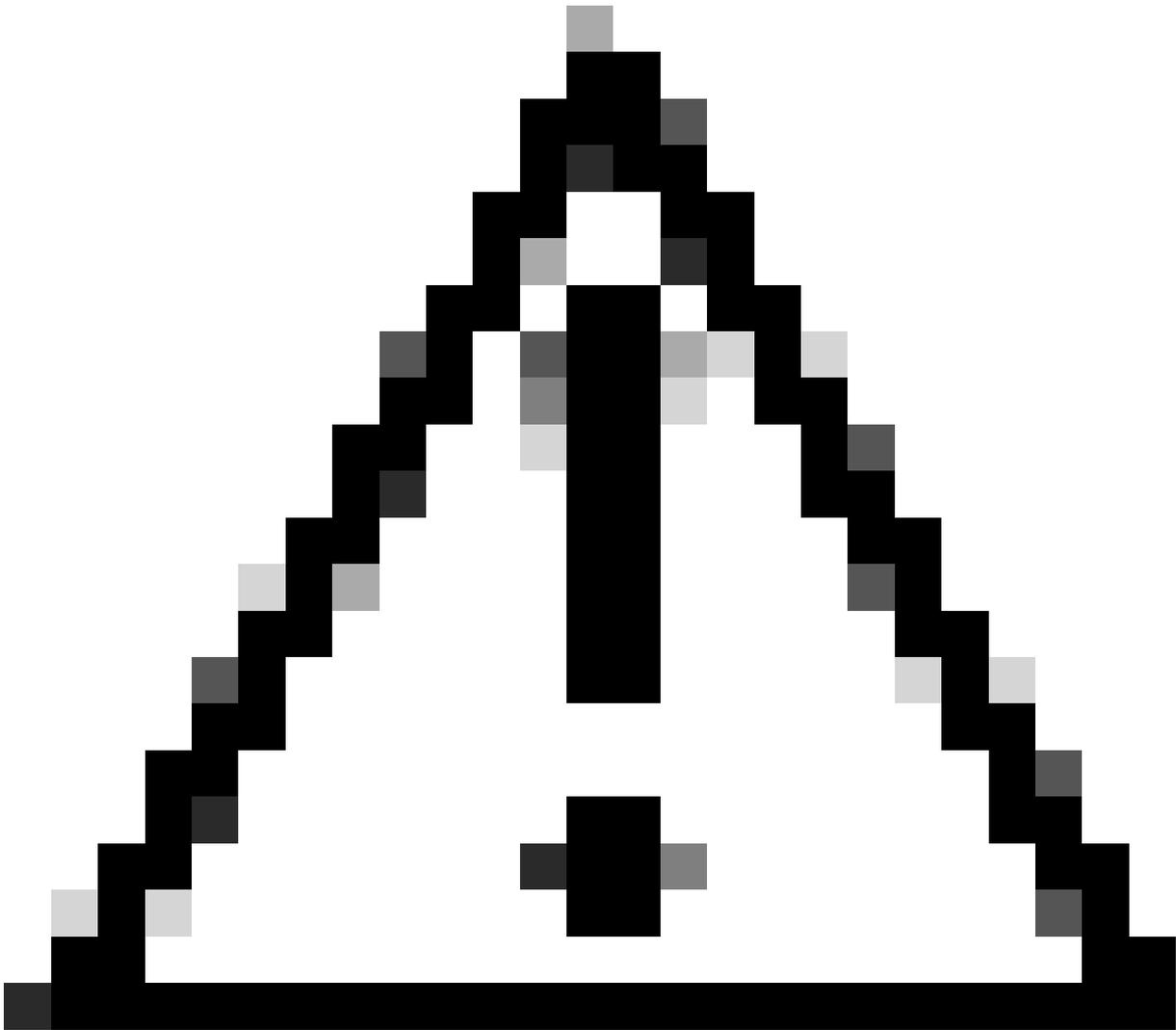
## 背景説明

サービスの問題のトラブルシューティングを支援するために、Cisco DNA Centerサービスのログレベルを変更できます。

グラフィカルユーザインターフェイス(GUI)を介してログを設定する場合は、この[ドキュメント](#)を確認でき**ます**。

サービスの既定のログレベルはinformational (Info)です。より詳細な情報を取得するために、ログレベルをinformational ( 情報 ) から別のログレベル ( デバッグ ) に変更できます。

---



注意：開示できる情報の種類により、デバッグレベル以上で収集されたログはアクセスが制限されている必要があり、長い間有効にできません。

---

- デバッグ：メッセージのデバッグ
- 情報：正常だが重要な状態メッセージ
- Warn：警告状態メッセージ
- エラー：エラー状態メッセージ

## Cisco DNA CenterのCLIログ

手順

ステップ 1：サービスのポートを指定します。

```
magctl service status [service] | grep -i port
```

```
magctl service ip display | grep [service]
```

ステップ 2：サービスのレベルログを設定します。

```
magctl service loglevel set -l debug -t [30|60] [service] [port]
```

---

注：ログレベルを変更できないサービスはほとんどありません。

---

その場合は、次のエラーメッセージが表示されます。「an error :

```
magctl service loglevel set -l debug -t 30 disaster-recovery-service 8500  
Could not complete the operation, either service is down or service does not support the operation
```

## 検証

変更を確認します。

```
magctl service loglevel display [service] [port]
```

## 翻訳について

シスコは世界中のユーザにそれぞれの言語でサポート コンテンツを提供するために、機械と人による翻訳を組み合わせて、本ドキュメントを翻訳しています。ただし、最高度の機械翻訳であっても、専門家による翻訳のような正確性は確保されません。シスコは、これら翻訳の正確性について法的責任を負いません。原典である英語版（リンクからアクセス可能）もあわせて参照することを推奨します。